



トンガレポート <9>

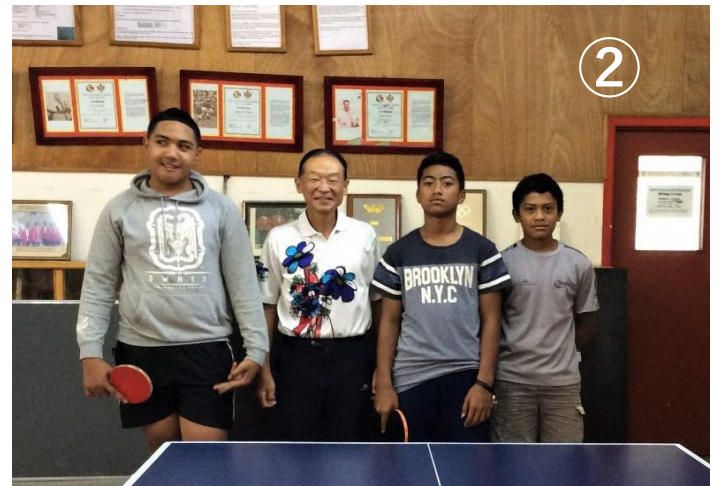
2018/3/8

青年海外協力隊 シニアボランティア
2016年度2次隊 卓球隊員 西岡 昌彦

早いものでもう2018年になり、私のトンガでの任期もあと7か月となりました。今回はTASA(トンガアマチュアスポーツ協会)で子供たちへ卓球指導の様子と2/12にやってきたサイクロンの話題をお伝えします。

1、子供たちへの指導

トンガレポート5では小学校訪問での青空卓球教室や段違いピンポン台などを紹介しました。小学校訪問の目的は卓球の普及ですが、TASAでは8~15歳の子供たちに将来ナショナルチームに所属することを目指して指導・育成しています。



①はある程度自分たちでラリーができる子供たちです。赤いTシャツの選手は高校生、この日はサンダル履きですが、ラケットの持ち方、返球のコツ、構え方などを教えたところすぐに習得して汗をかきながら練習していました。どこにでも「センスのいい選手」はいるものだと実感しました。

②の写真で私と一緒に写っているのは全員13~14歳、日本の中学生にあたります。左端の選手は私よりはるかに身長が高く体格に恵まれていることがわかります。素質や潜在能力がありながらトンガでは物事を「継続することが苦手」な人が多いことが指導者としては残念です。



トンガでは卓球協会に「選手登録」という制度がないため、一旦練習に来なくなると選手に連絡が取れなくなってしまいます。逆にある日突然練習にやってくる子供もいます。③はこの日初めてやってきた子供にラケットの持ち方を指導しているところです。黙っているとトンガレポート5で紹介したように驚ぶかみにしてしまうのでほとんどの子供はここからスタートです。なお頭に巻いているのは、この日暑かったため日よけのタオルです。

TASAで子供たちを指導するとき一番困るのは①スタート時期がバラバラなこと②常に選手が入れ替わること③アシスタントがないことの3点です。

例えば日本の中学でしたら新学期に合わせて同じ時期に初心者レベルの選手が練習をスタート、上級生も指導を手伝ってくれます。公民館等で卓球教室を開催する場合も「初級コース」あるいは「中級コース」といったようになるべく同じレベルの指導対象者を募集します。

レベルがある程度揃っていれば指導対象者たちを一つのグループとして一人で指導が可能です。

卓球にダンス、芸達者なメレ(9歳)この日はウクレレを披露してくれました。



しかしトンガでは前述したの3点の問題があり同じ時間帯で異なるレベルの子供に対し一人で指導することを強いられます。

子供たち同士で打球させるとお遊びの世界になってしまうのでどうしても私が直接指導しなければなりません。でも相手のレベルはバラバラ、私の体は一つ。その結果やむを得ず、一人1分に時間を細切れにして指導せざるを得ない状況です。

週に二回やってくる子供たちへの指導の時間は本当に大変です。準備、全体の管理、指導、時間管理、球拾いなどすべて一人でやっている自分の姿は、まるで皿回しの曲芸師のようです。



アシスタントさえいてくれれば子供たちをもっと上手に、球拾いだけでも協力者がいればもっと効率よく指導ができることは明白なため、トンガ卓球協会には再三協力をお願いしています。

その都度「わかった」と返事をいただくのですが、願いもむなしく状況に変化はありません。現在も私はひたすら曲芸師のような状態で指導を続けています。ここが日本だったらもっと子供たちにしてあげられることはたくさんあるのにとすると少々残念です。

④時間効率の悪い練習ですが、終わった後は私が何も言わなくても子供たちでラバーの手入れをしてくれます。日本のようにラバーを手入れする道具はないので私が準備した食器を洗うスポンジを半分

に切ったものと水道水を使用しています。いつもは蛇口のある給湯室で行うのですが暗いためホールでやってと言ったら「イオ」(トンガ語で「はい」)と返事して笑顔でやってくれました。

・・・君たち今日の練習はどうだった？多少はお役に立てただろうか、私の一所懸命さは伝わったかな？練習後、そう自問してみる。『大丈夫だ、伝わっている。その証拠にみんな笑顔だ』っと天からの声が聞こえるような気がします。日本にいては決して味わえない貴重な体験に感謝。

2、サイクロンジータ(Cyclone GITA)

去年のトンガは幸運なことに一つのサイクロンもやってきませんでした。残念ながら今年は2/12の夜から翌朝にかけてカテゴリー4の巨大サイクロン「ジータ」の直撃を受けました。

日本でこのサイクロンの報道はされなかったようですが、ちょうど平昌オリンピックの開会式でトンガの旗手が上半身裸で登場して話題になっていた頃のことです。



<飛散したトタン板>

事前の情報によりボランティアのほとんどはJICAトンガ事務所と日本大使館が入居しているおそらくトンガでも最高に強固なビルのうちのひとつと思われる5階建ての建物に避難。

トンガ本島が小さいのとサイクロンが巨大だったことが重なり、2/12の21時頃から翌朝の5時頃まで長時間、暴風雨にさらされ強固と思われたビルの窓ガラスも深夜のうちに数枚が吹き飛び漏水も発生して不安な一夜を過ごしました。

幸いトンガ在住の日本人に怪我はなく全員無事で何よりでした。

以下何枚かサイクロン通過後の首都ヌクアロファの被害状況の画像を添付しますのでご覧ください。



<屋根全体が吹き飛んだ建物と傾いた電柱>



<屋根が吹き飛んだ家屋 ①>



<屋根が吹き飛んだ家屋 ②>



<半壊した隣家>



<屋根が損傷した商店と道路に横たわる電線>



<屋根が半壊した小学校>



<倒れた看板 ①>



<倒れた看板 ②>

私も日本で台風に遭った経験は何度もありますが、今回はこれまでに最も強力な台風(サイクロン)でした。

私の家もリビングの窓ガラスが一枚割れて室内にあったものが飛散し、水浸しになりました。さらに隣の教会からマンゴの巨木が折れて雨水タンクを直撃し、タンクの屋根とシステムそのものが破壊されてしまいました。



<隣の協会と自宅前を埋め尽くした枝>



<倒木により損傷した自宅の雨水タンク>

サイクロン通過後は断水と停電により厳しい生活を体験しました。日本では災害の際に自治体や自衛隊の給水車が救援活動をする映像を目にしますがトンガではそれがないため、断水を予測して赤バケツとありったけの使用済みペットボトルに汲み置きしていた水が役立ちました。

私の家は市内中心部にあるため幸いにも水道は3日後、電気は11日後に復旧して生活は楽になりましたが、まだ停電している地区もあるそうで本島全体の復旧は1か月半~2か月かかるようです。

自宅の水道と電気は復旧しましたがリビングの窓ガラスと雨水タンクは壊れたまま、修理にはかなり日数がかかりそうな気がします。

私の家はシャワーでお湯を使う際に雨水タンクの水を使用します。現在トンガは夏なので水のシャワーで問題ありませんが、この先6~8月は寒くなるため果たしてそれまでに修理が済むか心配です。



<根こそぎ倒れた大木>

大家さんは2月末に何事もなかったかのように3月分の家賃を全額集金していきました、早く修理を開始していただきたいのですが何となく嫌な予感がしています。

今回異国で自然災害を体験し、日頃から災害に対する備えの大切さを痛感しました。

ジータは過ぎ去りましたがトンガは3月までがサイクロンのシーズンと聞いていますので、この先再度サイクロンの襲来がないことを願っています。



<自宅隣の教会から見た倒壊したマンゴの大木>